



# CentreCOM™ LA-PCM

## WindowsNT Version 4.0 NetWare Version 4.11J MS-DOSクライアント

CentreCOM LA-PCM シリーズイーサネットアダプターをご購入いただき、誠にありがとうございます。この文書は、「LA-PCM シリーズ ユーザーズマニュアル」「リリースノート <CentreCOM LA-PCM シリーズ>」の内容を補足するもので、以下の内容が記載されています。

1. Windows NT Ver. 4.0 .....	2
2. MS-DOS のドライバーをインストールする前に .....	18
3. NetWare 4.11J クライアント (MS-DOS) .....	18
4. 本文書に関するご注意 .....	23

本文書は以下の仮定のもとに記述されています。

- [1] AT **互換機の場合**はフロッピーディスクドライブをA:、インストール先ドライブをC:、CD-ROM ドライブをE:と仮定します。
- [2] PC-98 **シリーズの場合**はフロッピーディスクドライブをB:、インストール先ドライブをA:、CD-ROM ドライブをD:と仮定します。
- [3] Windows NT Ver.4.0 はご使用のコンピュータに既にインストールされているものとします。

---

# 1. Windows NT Ver. 4.0

Windows NT Ver. 4.0 に NDIS ドライバーをインストールする手順を説明します。ドライバーは、「LA-PCM ドライバーディスク」の「¥WINDOWS.NT¥40」に置かれています。



Windows NT のハードウェア互換性リスト( Windows NT パッケージに同梱されています ) に挙げられていないパソコン機種で本ドライバーをご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのパソコン機種で本ドライバーをご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象になりません。



ここに挙げた例は一例であり、お客様の使用するパソコンやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。



Windows NT のインストールを行ったあとで本アダプターをパソコンに取り付けてからドライバーのインストールを行うことをおすすめします。Windows NT は Plug&Play をサポートしていないため、Windows NT とドライバーのインストールを同時に行うと、Windows NT のインストール中に本アダプターが使用するリソース( I/O ベースアドレス・インタラプト(=IRQ)) が他の拡張アダプターと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

(注) 本書では、Windows NT Workstation を用いて説明を行います。

---

## 1.1 インストールの手順（概要）

本アダプターを使用するための手順は以下の通りです。

### 1 本アダプターをコンピュータに設置します。

設置の手順は「ユーザズマニュアル」第1部「2. イーサネットアダプタの取り付け」をご覧ください。なお、コンピュータの電源はこの時点では入れないで下さい。

### 2 本アダプターをイーサネットに接続します。

接続の手順は「ユーザズマニュアル」第1部「3. イーサネットに接続する」をご覧ください。

### 3 本アダプターが使用できるハードウェアリソース (I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ)) の値を確認します。

Windows NTはPlug & Playをサポートしていないため、I/O ベースアドレス・インタラプトの値をユーザーが設定しなければなりません。工場出荷時の値（下表参照）が他の拡張アダプターと重複している場合は別の値に設定し直す必要があります。ドライバーをインストールする前に値が重複していないかを確認し、重複している場合は空いている値を調べて下さい。

設定可能な値の範囲は「ユーザズマニュアル」付録A「A.5 CentreCOM LA-PCM仕様」をご覧ください。なお、設定はドライバーのインストール時に表示される設定ダイアログで行います。

	I/O ベースアドレス	インタラプト (IRQ)
AT 互換機	300	5
PC-98	d0	5

値を確認する手順は、本書「1.2 リソースの確認」をご覧ください。

値を再設定する手順は、本書「1.3 NDIS ドライバーのインストール」をご覧ください。

### 4 ドライバーのインストールを行います。

(I/O ベースアドレス・インタラプトの値を必要に応じて設定します。)

本書「1.3 NDIS ドライバーのインストール」にしたがって、インストールを行ってください。

手順3での確認の結果、I/O ベースアドレス・インタラプトの変更が必要な場合は値を設定し直します。

## 1.2 リソースの確認

本アダプターが使用するリソース(I/Oベースアドレス・インタラプト(=IRQ))の値を以下の手順にしたがって確認します。

- (1) 「スタート」「プログラム」「管理ツール(共通)」「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。



図 A

- (2) 「リソース」タブを選択します。最初に「IRQ(I)」の画面が表示されますので現在の設定(工場出荷時は10に設定されています)が既に使用されていないか調べます。値が重複している場合は他の値に設定する必要があるので空いている値を調べておきます。詳細は前ページ手順3をご覧ください。

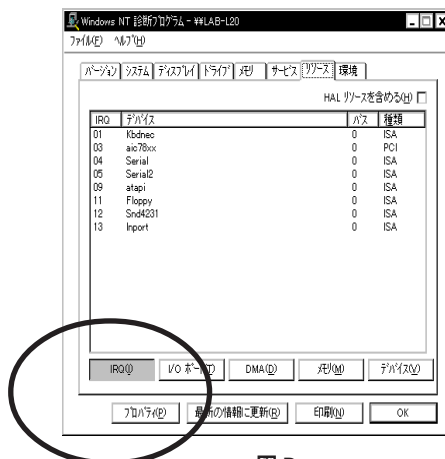


図 B

- (3) 次に、「I/Oポート(T)」ボタンをクリックしてI/Oベースアドレスの画面を表示します。同様に値が重複しないか確認の上、必要なら空いている値を調べておきます。詳細は前ページ手順3をご覧ください。



図 C

---

## 1.3 NDIS ドライバーのインストール

ここでは、「アダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」<sup>†1</sup> 場合の本アダプター用ドライバーのインストール手順について説明します。また、ここでは Windows NT Setup が要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

- (1) 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックしてください。「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



図 1

- (2) 「マイコンピュータ」ウィンドウの「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックしてください。「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。



図 2

---

<sup>†1</sup> 「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。

- (3) 「コントロールパネル」ウィンドウの「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。図3のダイアログが表示されます\*1。「今すぐインストールしますか?」の問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。

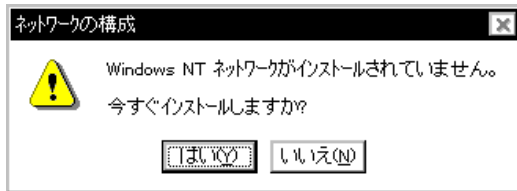


図3

- (4) 「ネットワークセットアップウィザード」ダイアログが表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。



図4

- (5) 図5が表示されたら、「一覧から選択 (S)...」をクリックしてください。



図5

(6) 本アダプター用のドライバーを選択します。

### CD-ROMからインストールする場合

「ネットワークアダプタの選択」ダイアログで「Allied Telesis LAPCM Adapter」を選択し、「OK」をクリックしてください。



図 6

### ドライバーディスク<sup>†1</sup>からインストールする場合

図6( )の「ディスク使用(H)」ボタンをクリックし、ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。

図7のダイアログが表示されますので、ディレクトリとして「A:¥windows.nt¥40」を入力し、「OK」をクリックしてください。(ここでは、フロッピーディスクのドライブ名をA:と仮定します。)

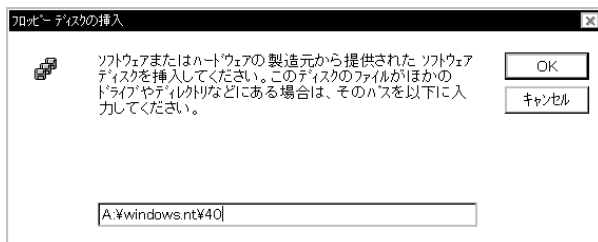


図 7

†1 フロッピーディスクでの供給の場合、CD-ROMに含まれるドライバーよりも新しいものが提供されていることがあります。最新のドライバーは、バグフィクスや機能の改良などがほどこされています。最新のドライバーの入手方法は「リリースノート」の「最新ドライバソフトウェアの入手方法」をご覧ください。



「Allied Telesis LA-PCM アダプタ」を選択し、「OK」をクリックしてください。

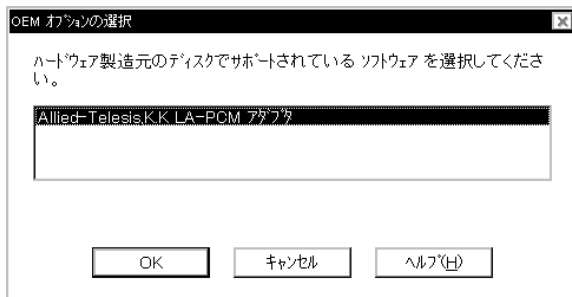


図 8

- (7) 「ネットワークセットアップウィザード」の「ネットワークアダプタ (A):」の「Allied Telesis LAPCM Adapter」(または「Allied Telesis LA-PCM アダプタ」、以下同様) にチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。



図 9

- (8) 使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここでは、「TCP/IP プロトコル」のみをチェックすると仮定します。



図 10

- (9) 使用するサービスにチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。



図 11

(10) メッセージを確認して、「次へ (N)>」をクリックしてください。

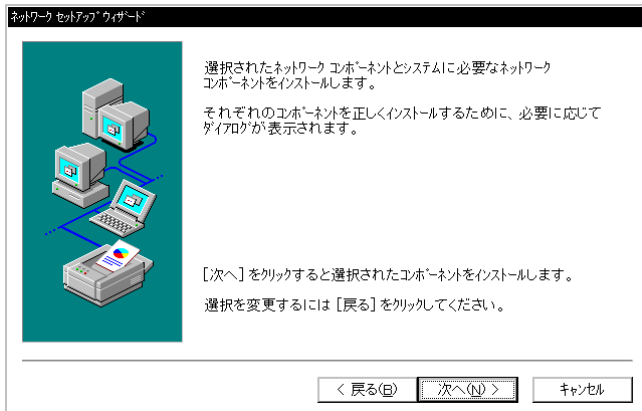


図 12

(11) Windows NT のインストール元のディレクトリを指定してください。AT 互換機の場合は「drv:¥i386」、PC-98 の場合は「drv:¥PC98」となります。(drv:はドライブ名です。画面(AT 互換機の場合)ではE:と仮定します。)

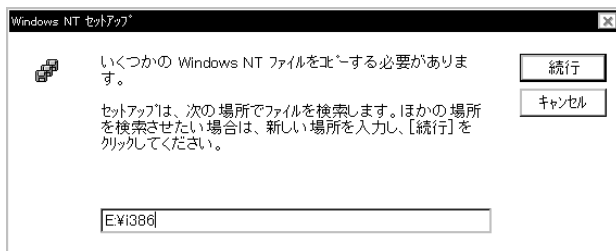


図 13

(12) 続いてLA-PCM の設定画面が表示されます。

「IRQ」(インタラプト)と「IOBaseAddress」(I/O ベースアドレス)に適当な数値を入力してください。詳細は本書 p.3 の手順3をご覧ください。なお、「PCIC Base Address」や「PCMCIA Slot」の項目はWindows NT Ver.4.0により自動的に設定されるため、ユーザによる設定は必要ありませんので、無視して下さい。(この項目はWindows NT Ver.3.51でお使いの場合に必要となります。)

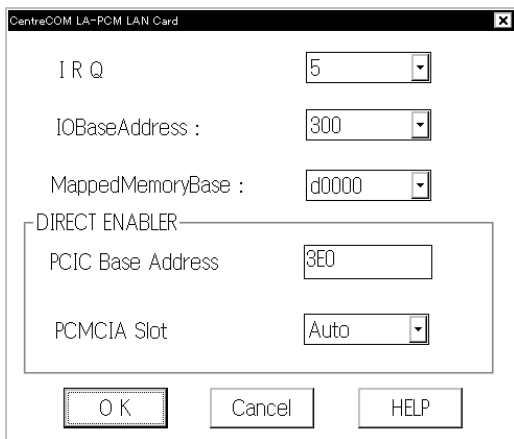


図 14

(13) コピーが始まります。



図 15

- (14) 「DHCPを使用するか?」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ (N)」をクリックすると仮定します。



図 16

- (15) (14)で「DHCPを使用しない」設定としたので、「TCP/IPのプロパティ」としてIPアドレスなどの値を設定しなければなりません。図 17に入力例を示します。これらの値は、お客様の環境における値を入力してください。

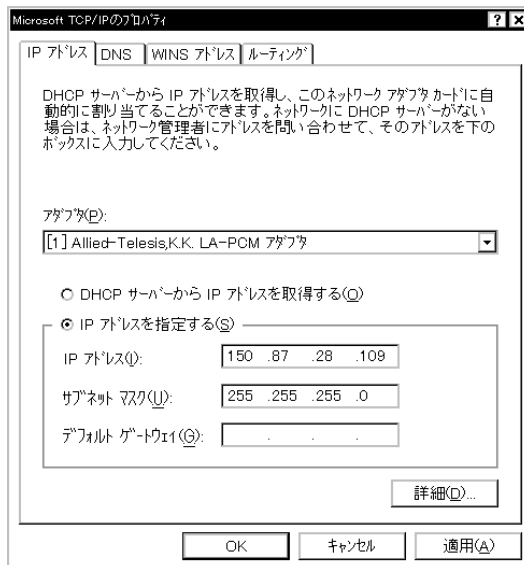


図 17

- (16) DNS (Domain Name System) の設定をします。「DNS」のタブをクリックしてください。  
図 18 に入力例を示します。ここでは、ホスト名として「view」を仮定しています。



図 18

- (17) 続いて、「WINS (Windows Internet Name Service) アドレス」の設定を行います。下の画面では、「Windows 名前解決に DNS を使う (N)」を仮定しました。  
必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い、最後に「OK」をクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。



図 19

(18) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 20

(19) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 21

(20) 「次へ (N)」をクリックしてください。図 22 では、「ワークグループ (W)」をそのまま使用すると仮定します。



図 22

(21) 「完了」をクリックしてください。



図 23



(22) 「はい (Y)」をクリックし、パソコンを再起動してください。

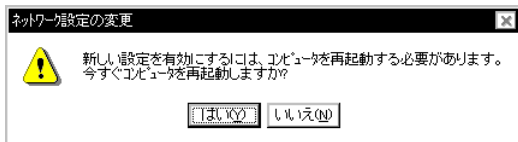


図 24

## 1.4 本アダプターのドライバーを削除する

- (1) 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。
- (2) 「ネットワークアダプタ (N):」で「Allied Telesis LA-PCM アダプタ」を選択し、「削除 (R)」ボタンをクリックしてください。



図 25

ネットワークアダプターを削除しても、そのアダプターにバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません（一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます）。したがって、アダプターを再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

---

## 2. MS-DOS のドライバーをインストールする前に

MS-DOS、Windows 3.1 環境では、本アダプターはソケットサービス / カードサービスと呼ばれるソフトウェアの管理下で動作します。本アダプターをご使用になる前に、それらのソフトウェアをインストールしておいてください。(ソケットサービス / カードサービスはパソコンに添付されています。)詳細は、ご使用になるパソコンのマニュアルや「ユーザーズマニュアル」の「4.3 ドライバインストールの準備」(PC-98)または「8.3 ドライバインストールの準備」(AT 互換機)をお読みください。

---

## 3. NetWare 4.11J クライアント (MS-DOS)

NetWare 4.11J の MS-DOS、Windows 3.1 クライアントのインストールにおける要点を説明します。インストール手順の詳細は、NetWare 4.11J のマニュアルをご覧ください。ドライバーディスクは、「PC-98 シリーズ」用、「AT 互換機」用の 2 種類が同梱されています。インストール対象のパソコン機種に合わせてご使用ください。

[注] インストールでは、「クライアントフロッピーディスク」を使用すると仮定します (CD-ROM から直接インストールすることもできます)。「クライアントフロッピーディスク」は、NetWare の CD-ROM の「INSTALL」コマンドで作成できます。

---

### インストールの前に

#### 1 本アダプターをコンピュータに設置します。

設置の手順は「ユーザーズマニュアル」第 1 部「2. イーサネットアダプタの取り付け」をご覧ください。

#### 2 本アダプターをイーサネットに接続します。

接続の手順は「ユーザーズマニュアル」第 1 部「3. イーサネットに接続する」をご覧ください。

---

## I/O アドレス、インタラプトの変更

本アダプターが使用するリソース (I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ)) の値は他の拡張アダプターと重複しないように手動で設定してください。

設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録A「A.5 CentreCOM LA-PCM仕様」またはreadme.odiの「NetWare 3.12Jのインストール」という節をご覧ください。

「Link Driver LAPCM」セクションの「PORT」、「INT」の後には、NetWare クライアントのインストーラで選択した数値が記述されます。他の拡張アダプタを取り付けたなどの理由で、本アダプターが使用するI/Oアドレス、インタラプトを変更しなければならない場合は、これらの数値を変更してください。

PC-9821 Na7、Na3をご使用になる場合は、「リリースノート」p.10「PC-9821 Na7、Na3などにおけるご注意」もご覧ください。

---

## ドライバーのインストール手順

- (1) 「NetWare Client for DOS and MS Windows Disk 1」をフロッピーディスクドライブに入れ、下記のコマンドを実行してください。

### PC-98 シリーズ

B: ¥> INSTALL

### AT 互換機

A: ¥> INSTALL

- (2) 表示される質問に対して、メニューの番号を入力してください。質問項目は、以下の3点です。
  - ・お使いのコンピュータの選択
  - ・インストールするクライアントの選択
  - ・時間に関する環境変数の設定
- (3) NetWare のインストーラが表示するメッセージにしたがい、表示されている項目 1、2、3、4. の問いを決定してください。

- (4) 「5. ネットワークボードのドライバーを選択してください」を実行すると、「ドライバーディスクの挿入」を促す画面が表示されます。フロッピーディスクをLA-PCMドライバーディスクに入れ替え、下記のディレクトリ名を入力してリターンキーを押してください。

#### PC-98 シリーズ

B:¥>NW411

#### AT 互換機

A:¥>NW411

- (5) 「CentreCOM LA-PCM」を選択し、リターンキーを押してください。
- (6) 「CentreCOM LA-PCM の設定」という画面が表示されます。以下の項目の設定が終了したら ESC キーを押し、この画面を終了してください。

#### Base I/O Port

本アダプタが使用する I/O アドレスを選択してください。

#### Hardware Interrupt

インタラプトレベルを選択してください。PC-9821 Na7、Na3をご使用になる場合は、「リリースノート」p.10「PC-9821 Na7、Na3 などにおけるご注意」もご覧ください。

#### Media Frame Type(S)

ご使用になるフレームタイプを選択してください。

- (7) 以後、インストールプログラムが表示するメッセージに従って操作してください。
- (8) インストールが終了し、DOSプロンプトが表示されたら、リセットスイッチを押してパソコンを再起動してください。

---

## インストール結果

インストールが終了すると、NetWare クライアントの動作に必要なファイルやドライバー「LAPCM.COM」がコピーされ、NET.CFG、STARTNET.BAT が作成されます。NetWare のインストーラは、AUTOEXEC.BAT に「@CALL drv:¥NWCLIENT ¥STARTNET „ PATH に「drv: ¥NWCLIENT „ 時間に関する環境変数「SET TZ=JST-9」を追加します（drv: はインストール先ドライブ名）。

NetWare クライアントのインストーラに対して、デフォルトの項目を選択したときの NET.CFG、STARTNET.BAT を示します。

### NET.CFG (PC-98)

```
Link Driver LAPCM
  PORT 0d0
  INT 5
  FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
  FIRST NETWORK DRIVE = F
  NETWARE PROTOCOL = NDS BIND
  SHORT MACHINE TYPE = PC98
  LONG MACHINE TYPE = NEC_PC
```

### NET.CFG (AT 互換機)

```
Link Driver LAPCM
  PORT 300
  INT 5
  FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
  FIRST NETWORK DRIVE = F
  NETWARE PROTOCOL = NDS BIND
  SHORT MACHINE TYPE = DOSV
```

## STARTNET.BAT

下記にPC-98シリーズにおける例を挙げます。AT互換機では、ドライブ名「A:」は「C:」となります。

```
SET NWLANGUAGE=nihongo
A:¥NWCLIENT¥LSL.COM
A:¥NWCLIENT¥LAPCM.COM
A:¥NWCLIENT¥IPXODI.COM
A:¥NWCLIENT¥VLM.EXE
```

---

## NESL.COM について

Netware 4.11Jでは、PCカードの活線挿抜などのイベントに対し、ドライバがNESLにイベントの発生を通知します。これによってアプリケーションなどの上位プログラムは、NESLから情報を受け取り、これらのイベントを認識できます。

---

## NESL.COM の常駐

NESL.COMは、NetWare 4.11Jクライアントのインストール時に「¥NWCLIENT」にコピーされる約2Kの常駐プログラムです。NESLは、LSL.COMの後、ドライバを常駐させる前に実行してください。NESLは、STARTNET.BATに記述してもかまいません。

```
LSL
NESL
LAPCM
.....
```

---

## 4. 本文書に関するご注意

- (1) 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- (2) アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- (3) アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更、改良することがありますのでご了承ください。
- (4) 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

(C) 1996-7 アライドテレシス株式会社

Microsoft、Windows、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Novell、NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

この文書に掲載されているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

### マニュアルバージョン

1996年12月	Ver.1.0 pl 0	1st release
1997年03月	Ver.1.0 pl 1	記述変更